

全国市街地の変遷

昭和の記憶から次代へ

本州最南西端に位置する下関市は人口27万人の山口県最大の都市である。

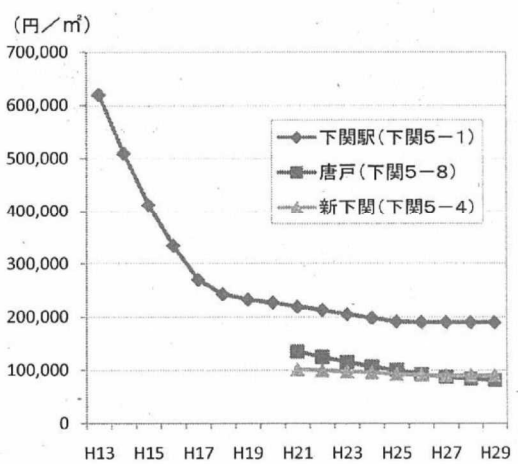
門司との海底トンネル

太古の昔から大陸との関係が深く、関釜フェリーなどの発着所もある。交通機関の変遷を見ると、1954年山陽電気軌道(路面電車)が、彦島口ー下関駅ー唐戸(下関港)ー長府駅、唐戸(下関港)ー東駅ー幡生の全線で開通した。線

路上の置き石が潰されるのを見た記憶があるが、71年には全線廃止された。これに対してJR線は58年の関門国道トンネル開通より早い41年に関門鉄道海底トンネルが開通し、下関駅から山陽本線下りで福岡県北九州市門司駅、上りは幡生駅を経て新下関駅・長府駅へ、山陰本線では綾羅木駅へと連絡する。

市役所のある唐戸には地方卸売市場として全国的に珍しい、鮮魚などを直接販売する唐戸市場がある。この唐戸岸壁で子供のころ、フグを釣り上げたことがあった。プクッと膨れるフグを見て、フグの名の由来を実感した。九州門司港行きの渡船場(唐戸ターミナル)側にはシーサイドモール「カモンワフ」が営業する。近くで結婚衣裳姿の女性を見かけるが、ここは日本最古の領事館建築物「旧英国領事館」である。向かいには日本最古の現役郵便局舎「下関南部町郵便局」で、灯台の役

地価公示に見る下関駅・唐戸・新下関駅の地価推移



近代化と唐戸・下関駅、新下関駅の移り変わり

遺産認定で新たな発展の芽

目も果たした「旧秋田商会ビル」もある。これら何十とある文化財によって、下関市・北九州市はノスタルジックな雰囲気を出すため、4月に日本遺産に認定された。また、駅

下関駅は明治・大正時代には現在地よりもっと唐戸寄りであったが、41年に彦島から海底トンネルで九州へ通過する鉄道の完成を待って埋立地の現在地へ移った。同駅では6月18日から「トワイライトエクスプレス瑞風」が運行する。駅東口には創業40周年を迎える県下一の大規模商業施設、「下関シーモール」が営業する。

新幹線開通時に改称

これに対して新下関駅は幡生駅の次駅で、昔は現在の国

また新下関駅から綾羅木駅を南西へ抜ける県道が開通し、これに沿って2009年大規模商業施設「ゆめシティ」が開店。15年には「下関北バイパス」も開通し、付近の地価は上昇傾向にある。

下関駅・唐戸エリアと新下関エリアの地価の推移はグラフの通り。今後は下関市がホテル誘致の方針であることなどを考慮すると、唐戸の下関駅寄りのあるかぼーと岸壁を備える「あるかぼーと」地区の発展が期待される。

山口県下関市 関門「ノスタルジック」海峡の駅



④「下関南部町郵便局」と市役所(奥)、旧秋田商会(右) ⑤旧英領事館(右奥に唐戸市場)



「あるかぼーと」地区には増設予定などのある市立水族

館「海響館」があり、海峡を一望できる大観覧車もある。

宝「住吉神社」駐車場に位置した旧「長門一ノ宮」駅が現在地へと移設した。75年の新幹線新関門トンネル開通時に駅名が変更され新幹線停車駅となる。

また新下関駅から綾羅木駅を南西へ抜ける県道が開通し、これに沿って2009年大規模商業施設「ゆめシティ」が開店。15年には「下関北バイパス」も開通し、付近の地価は上昇傾向にある。